

JENESYS2015 派遣プログラム (タイ王国／大学生) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、タイへ日本の大学生 23 名が派遣され、日本の政治、社会、歴史、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、11月10日から11月18日までの8泊9日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加者・人数

愛知淑徳大学 (2名)、名古屋外国語大学 (1名)、大阪府立大学 (5名)、近畿大学 (5名)、一橋大学 (5名)、北海道教育大学 (5名) 計 23名

3. 訪問国

タイ王国

4. 日程

- 11月10日(火) 出発前簡易オリエンテーション
成田国際空港より出発、バンコク着
- 11月11日(水) 【表敬訪問】社会開発人間保障省 子供青少年局、在タイ日本国大使館
【市内視察(車窓)】ワット・プラケオ、アナンタ・サマーコム宮殿
【視察】JICA タイ事務所
- 11月12日(木) 【学校交流】タマサート大学
- 11月13日(金) 【学校交流】タイ商工会議所大学
【ホームステイ】ホストファミリー(テーブルラー学校生徒)対面式
- 11月14日(土) 【ホームステイ】
- 11月15日(日) 【歴史/文化/自然】アユタヤ
- 11月16日(月) 【ODAサイト視察】アジア太平洋障害者センター (APCD)
【ワークショップ】報告会準備
- 11月17日(火) 成果報告会、歓送会、バンコク発
- 11月18日(水) 成田国際空港到着

5. JENESYS2015 派遣プログラム記録写真 (派遣国：タイ) 大学生

	
<p>11/11 表敬訪問 (在タイ日本国大使館)</p>	<p>11/11 視察 (JICA タイ事務所)</p>
	
<p>11/12 学校交流① (タマサート大学)</p>	<p>11/13 学校交流② (タイ商工会議所大学) 日本の魅力発信</p>
	
<p>11/16 ODA サイト視察 (アジア太平洋障害者センター)</p>	<p>11/17 成果報告会</p>

6. 参加者の感想

◆ 近畿大学 大学生

タイは、以前に考えていた印象と直接見て経験した印象とではかなり違っていました。タイは日系企業の恩恵を強く受けている一方で、日本もまたタイのお陰で成長のスピードを加速させているというWIN-WINな関係を強く感じました。

タイを巡っている時、インフラ整備がまだまだ進んでいないという現状を見ましたが、これは東南アジアに共通した問題であると思いました。

大学訪問を通じて感じたタイ人学生の学習意欲の高さは驚くべきもので、日本人の学習意欲の低さを思うと、危機感を覚えました。

帰国後は今回の経験をもとに、どのような環境においても日本を支え、アジアで活躍できる日本人となれるよう努力したいと思います。

◆ 近畿大学 大学生

このタイ派遣で、タイの良い面と、悪い面、即ち、改善すべき面に気付きました。まず、良い面として、タイ人の人柄の良さが挙げられます。どこへ行っても人々が笑顔で絶やさない国だという印象を受けました。日本では言葉が分からないので外国人は苦手だという人や、外国人を避ける人が多いのですが、タイの人は言葉が分からなくても笑顔で接してくれる人ばかりでした。どこへ行っても同様に感じたので、国民が全体的に親切で心優しいのだと思いました。

一方、水道のインフラが整っていないという点も目に留まりました。高層ビルやマンションが立ち並び、ほとんどの人々が携帯を所有し、都市部は日本と変わらないようですが、水道水は飲むことができず、トイレがどんなに整備されている場所でもトイレットペーパーを流せませんでした。水に関するインフラについてはまだ整備が必要であると思いました。

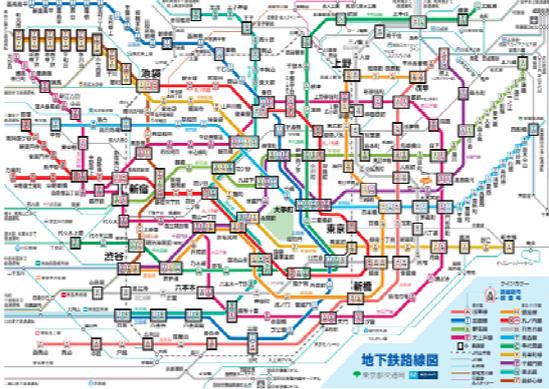
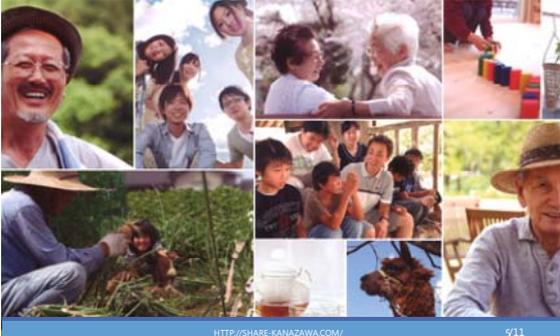
タイではFacebookの利用率が大変高いため、帰国後はFacebookを通じて「日本のカワイイ」を始めとする流行等について発信していきたいと思います。

◆ 北海道教育大学 大学生

今回の訪問で、タイはかなりの速さで経済成長をしているということが分かりました。教育や行政を見ても、日本を参考にしつつ自分たちに合った形で発展させているので、すばらしいと思いました。しかし、「中所得国の罠」にはまり、低付加価値の労働集約産業に頼る成長が続いているのも事実で、今後も持続的な発展を遂げていくためには、また別の形の支援が必要になってくるということも分かりました。

今後、日本とタイのより良い関係を築くために、日本が持つ技術による長期的支援や、変化の激しい社会に対応していくための支援が大切だと思います。草の根レベルで、また民間レベルで、このような交流を深めることが日タイ関係を向上させる重要な要素だと思います。帰国後は、日本とタイの文化・魅力を発信していきたいと思います。

7. 参加者の帰国後の発信内容

<p>Pictogram of toilet in Japan</p> 	
<p>日本の魅力：分かりやすいピクトグラム (形に加えて色で男女のトイレを区別)</p>	<p>日本の魅力：分かりやすいピクトグラム (複雑な地下鉄路線図を色とマークで分かりやすく表示)</p>
 <p>HTTP://SHARE-KANAZAWA.COM/ 5/11</p>	 <p>HTTP://SHARE-KANAZAWA.COM/ 4/11</p>
<p>日本の魅力：日本での高齢者に対する学生の取組</p>	<p>アクションプラン：日本の高齢化社会対策を高齢化の進むタイへ紹介</p>
<p>3. Amusement of Japan</p> <p>① Purikura</p> <ul style="list-style-type: none"> • For memory ex. Graduation ceremony, First date • To make people look beautiful (If you upload it on Facebook, you can get many likes!!!) 	<p>4. Action Plan</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS → facebook、twitter、Instagram • Blog → Discover Japan (http://discoverjapan2015.tumblr.com/) <p>JENESYS2015</p>
<p>日本の魅力：プリクラ等の若者カルチャー</p>	<p>アクションプラン：SNS やブログで日本の魅力を発信</p>